
健康偏差値と経済偏差値による

都道府県ランキング

はじめに

男女の健康3偏差値（健康寿命，平均寿命，平均寿命－健康寿命の長さ）と経済2偏差値（一人あたり県民総生産，一人あたり県民所得）の相加平均を高い順に並べた。結局「健康とお金」かよ，と指摘されそうだが，心の満足度（幸福度）を客観的に測るのは可能だが，議論が分かれてしまうので，というか，すでにある資料で今回はランキングしてみた。（平均寿命－健康寿命）の短さを外すことも考えたが，外すことは後からでもできると判断した。また，熊本の健康寿命はデータがないので，平均寿命だけ。だから，熊本県は参考資料。

さて，総合は東京が1番となつた。経済偏差値の幅に比べて，健康偏差値の幅は限定的なので，経済的に豊かな地域が上位に来やすく，豊かでない地域が下位になりやすい傾向があることは踏まえておく必要がある。東京は経済の偏差値が100を超え他を圧倒，経済は東京がずば抜けている，まさに東京一極集中。

また，ランクは，経済と健康の2指標を，優良可と3段階に分け，3×3の9通りは多すぎるので，どちらも優が「A」，どちらかが優残りが良を「B」，どちらも良とどちらかが優残りが可が「C」，どちらかが良残りが可を「D」，どちらも可「E」の5ランクに分けた。

なお，優>55.0，45.0=<良>=55.0，可<45.0，とした。

ランキング

東京

健康偏差値が47，しかし経済偏差値が101で総合ダントツ，経済の東京，高所得を得たい人，得る人は東京に住む，でも老後に住むのはどうなんだろう。東京にマネーが集中している。これは仕方がない。それが良いことか悪いことか，悪ければ，どこまで意図的に分散させるかがポイントとなるが，現にその試みは進行中だ。

愛知・静岡

太平洋の中部地方2県，健康も経済も平均して高く，住むにも働くにも日本においては優良な結果となった。一緒にしたが，2県の間には少し差がある。愛知のほうが頭ひとつリードしている。

富山

静岡と同点3位は意外。経済も健康も高い。あまり知識がないのでわからないが，製造業が盛んなのだろう。隠れた優良県といったら失礼か。

都道府県総合ランキング

	都道府県	寿命3偏 差値平均	経済2偏 差値平均	総合偏 差値	ランク
1	東京	47.0	101.3	74.1	B
2	愛知	62.2	66.2	64.2	A
3	静岡	55.7	58.4	57.0	A
4	富山	57.8	56.1	57.0	A
5	山梨	63.8	49.9	56.8	B
6	三重	54.7	56.3	55.5	B
7	栃木	52.4	58.1	55.3	B
8	茨城	53.9	55.5	54.7	B
9	福井	55.0	53.3	54.1	C
10	山口	51.6	53.9	52.7	C
11	石川	55.4	50.0	52.7	B
12	群馬	50.9	54.2	52.6	C
13	岐阜	58.0	47.2	52.6	B
14	滋賀	48.7	56.4	52.5	B
15	新潟	55.3	48.2	51.8	B
16	神奈川	50.6	51.4	51.0	C
17	香川	51.8	49.7	50.7	C
18	宮城	50.0	50.5	50.3	C
19	長野	50.8	49.3	50.1	C
20	山形	53.7	45.7	49.7	C
21	千葉	52.8	46.1	49.5	C
22	埼玉	54.3	44.4	49.4	D
23	福島	46.1	52.1	49.1	C
24	大阪	43.8	54.3	49.1	D
25	広島	44.1	53.3	48.7	C
26	島根	52.9	44.4	48.7	D
27	岡山	49.0	48.0	48.5	C

	都道府県	寿命3偏 差値平均	経済2偏 差値平均	総合偏 差値	ランク
28	兵庫	47.0	48.3	47.7	C
29	京都	45.1	50.2	47.7	C
30	大分	49.6	44.9	47.3	D
31	鹿児島	53.6	39.7	46.6	D
32	福岡	45.6	47.0	46.3	C
33	徳島	40.8	51.2	46.0	D
34	和歌山	42.2	49.3	45.8	D
35	岩手	45.3	45.9	45.6	C
36	宮崎	50.1	40.1	45.1	D
37	佐賀	48.1	41.8	44.9	D
38	青森	46.0	43.3	44.6	D
39	沖縄	52.8	36.0	44.4	D
40	高知	46.9	41.8	44.4	D
41	長崎	47.5	41.2	44.3	D
42	愛媛	43.6	45.0	44.3	D
43	北海道	43.6	43.7	43.6	E
44	鳥取	44.6	39.5	42.0	E
45	秋田	41.6	42.1	41.8	E
46	奈良	42.7	36.8	39.8	E
*	熊本	60.7	41.2	50.9	C

内閣府「県民経済計算」2018 厚生労働省「都道府県健康寿命ランキング」2018

都道府県 健康・経済各ランキング

	都道府 県名	健康偏 差値	都道府 県名	経済偏 差値
1	山梨	63.8	東京	101.3
2	愛知	62.2	愛知	66.2
3	岐阜	58.0	静岡	58.4
4	富山	57.8	栃木	58.1
5	静岡	55.7	滋賀	56.4
6	石川	55.4	三重	56.3
7	新潟	55.3	富山	56.1
8	福井	55.0	茨城	55.5
9	三重	54.7	大阪	54.3
10	埼玉	54.3	群馬	54.2
11	茨城	53.9	山口	53.9
12	山形	53.7	福井	53.3
13	鹿児島	53.6	広島	53.3
14	島根	52.9	福島	52.1
15	千葉	52.8	神奈川	51.4
16	沖縄	52.8	徳島	51.2
17	栃木	52.4	宮城	50.5
18	香川	51.8	京都	50.2
19	山口	51.6	石川	50.0
20	群馬	50.9	山梨	49.9
21	長野	50.8	香川	49.7
22	神奈川	50.6	長野	49.3
23	宮崎	50.1	和歌山	49.3
24	宮城	50.0	兵庫	48.3
25	大分	49.6	新潟	48.2
26	岡山	49.0	岡山	48.0
27	滋賀	48.7	岐阜	47.2
28	佐賀	48.1	福岡	47.0

	都道府 県名	健康偏 差値	都道府 県名	経済偏 差値
29	長崎	47.5	千葉	46.1
30	兵庫	47.0	岩手	45.9
31	東京	47.0	山形	45.7
32	高知	46.9	愛媛	45.0
33	福島	46.1	大分	44.9
34	青森	46.0	埼玉	44.4
35	福岡	45.6	島根	44.4
36	岩手	45.3	北海道	43.7
37	京都	45.1	青森	43.3
38	鳥取	44.6	秋田	42.1
39	広島	44.1	高知	41.8
40	大阪	43.8	佐賀	41.8
41	愛媛	43.6	長崎	41.2
42	北海道	43.6	熊本	41.2
43	奈良	42.7	宮崎	40.1
44	和歌山	42.2	鹿児島	39.7
45	秋田	41.6	鳥取	39.5
46	徳島	40.8	奈良	36.8
47	熊本	60.7	沖縄	36.0

山梨

経済は日本の平均だったが、健康が1位で押し上げた。今回の結果からは、老後住むんだったら山梨はありとなった。

三重

関西のトップは三重県。経済値がなかなか高く、健康も高めで6位。隣県の奈良が最下位であることを考えると県境は大きな境界線となっているかもしれない。奈良と三重がこんなに差があるとは。

栃木・茨城

ここにこの2県は意外。関東、東京の次は、栃木、茨城、そして群馬。これら3県の後塵を拝し神奈川16位、千葉、わが埼玉21,22位だった。埼玉のライバルはやはり千葉か。しかも今回は千葉が上

だった。神奈川のこの位置も少し意外。栃木、茨城、群馬の経済偏差値は予想より高い。特に栃木。「一人あたり」の生産性は高いと出た。

9位が福井，11位石川，13位岐阜，15位新潟，と中部地方が続いた。中部地方の最下位は20位長野県，20位以内に全県が入るのは快挙，意外な結果だった。私のデータが間違っているのか？

20位までの内訳は，中部全9県，関東5都県，東北2県，関西2県，中国1県，四国1県。東北と関西の2県はともに中央寄り，日本の中央が優位な結果となった。関東は千葉と埼玉が20位の外になったが，今回の結果では埼玉の経済が関東では一番悪かった。人口の多さ，専業主婦・高齢者などが多い，東京依存，埼玉固有の産業が少ない，観光の弱さなどの理由が考えられるだろう。経済の悪さは＝住みにくさではなく，物価が比較的低めなどのメリットも考えられる。

東北は宮城県（健康・経済ともに平均に近い）と山形県（健康値が高い），関西の2県は既出の三重と滋賀（健康が高め），中国のトップは山口県10位，四国のトップは香川県（17位）で，九州は0だった。山口の10位も意外だった。明治維新の威光はまだ続いているか，首相輩出最多県。鹿児島は当てはまらないから明治維新は関係ない。岸・佐藤の中興が大きかったのかもしれない。岸首相の孫の安倍首相は，在任期間史上最長。もちろんこれも関係ない。香川県は四国の宮城県の存在で，四国電力，JR四国など四国主要企業の本社・全国企業の四国支社が高松に多いことからもうなずける。

21・22位の千葉・埼玉以降では，南東北の福島が来て，近畿の主要府県大阪・兵庫・京都と鳥取以外の中国地方が集中する。大阪・広島は経済値は高めながら健康値が低め，福島・京都は経済は平均近くだが健康値が低め，島根は健康値が高めで，岡山・兵庫はどちらもやや平均より低めだった。

30位台は九州のトップ，意外にも大分で始まり，鹿児島・福岡・宮崎・佐賀・沖縄と九州勢6県が入っている。福岡は九州3位，健康偏差値が低かった。大分は健康値が高く経済も九州内では福岡に次ぐ2位，鹿児島は健康値が高め，宮崎・佐賀・沖縄は健康値が高めで経済値の低さをカバーした。九州は健康値が高めで経済値が低め，特に沖縄・宮崎。四国2番の徳島は大塚グループのお膝元，経済値が四国ではトップと，経済的には貢献したが，肝心の健康にはあまり貢献していない?! 近畿の和歌山は経済は兵庫より上だったが，健康値が低い。東北の岩手・青森2県は経済も健康もどちらも低め。

40位台に四国残りの2県，高知は健康値が経済値より高く，愛媛はその逆だった。九州ラスト（熊本は除く）は長崎，他の九州県に比べて健康値が低かった。ラスト4の北海道・秋田は健康経済両方低め，鳥取・奈良は経済値が低かった。奈良が最下位だったのも意外。聖徳太子や藤原鎌足が悲しむよ。実態も理由もわからない。暮らしやすいかもしれない。関西の埼玉なのかもしれない。東京と大阪の経済力の差が埼玉との違いかもしれない。

ランク

ランクの集計結果は、

ランクAが3都県

ランクBが9県

ランクCが16府県

ランクDが14県

ランクEが4道県

(熊本は参考含まず)となり、分布としては少し低いほうに歪むほぼ正規分布に近い形となった。

東京はランク2だった。Aとならなかったところが暗示的で、東京は今のままでは良くないということかもしれない。ランクA「たいへん良い」は3県だけ愛知・静岡・富山全部中部地方。ランクB「やや良い」は9都県中部地方4(山梨, 石川, 岐阜, 新潟) 関東3(東京, 栃木, 茨城,) 関西2(三重, 滋賀)で、意外な顔ぶれとなった。ランクC「ふつう」は、東北4, 関東3, 中部2, 関西2, 中国3, 九州1・四国1, トップは9位の福井県, ラストは35位の岩手県だった。ランクD「やや悪い」は、東北1, 関東1, 関西2, 中国1, 九州6・四国3NO 14県で、22位のわが埼玉県から42位の愛媛県まで。ランクEは北海道1東北1関西1中国1, 4道県で北海道・鳥取・秋田・奈良。

熊本がどこに来るのかわからないが、ランクは多分Dで、経済値から推測するに大分と長崎の間、長崎よりかもしれない。

繰り返しになるが、日本の中央が良い結果となり、西日本、南日本が下位に来る結果となった。中部地方は平均すると住みやすい地域なのかもしれない。北海道・秋田・青森の北端も悪いが、全体的に西南日本にとって悪い結果となった。さらに、鳥取と奈良は寿命も経済も両方低いのはなぜなんだろう、この2県の生活感はどうなんだろう。逆に体験して理由を考えてみたい。

途中から「意外」という言葉を使うことに躊躇わなくなった。それは、「意外」な結果は見方によっては、新しい視点を示し考察や分析のきっかけとなる利点もあるから。もちろん、データが間違っていれば意味はない。

今回の順位やランクにあまりとらわれるべきではないが、無視すべきでもない。冷静にいろいろな視点から見る必要があると思う。実際に生活してみると違うことが少なくない。これも繰り返しになるが、東京の経済偏差値のように100を超える数値と、日本国内の健康寿命のようにそれほどのばらつきはなく、一定の範囲に収まる数値と平均を取った結果でもある。経済値は一人あたりの数値を使っている。一人あたりは少なくとも県として総生産や所得の値が高ければそれなりの経済力はあるものだ。埼玉県は県民総生産(グロス)では全国5位(今回使用した2018年)。

Appendix(アペンディックス・おまけ)

ここからは少し今回のテーマから離れてしまうが、持論を書いておく。

専業主婦や定年退職者が多くなれば1人あたりの経済数値は下がる。夫婦でフルタイムで働く世帯が多ければ数値は上がる。しかし、どのライフスタイルが良いとも悪いとも言えない。それは、

それぞれの個人や夫婦の考え方や生き方で価値が変わるから。そして、特に子どもにとってどちらがいいか？正解のない問題で、ケースによる。だから、自分たちの考え方が重要だ。

大切なのは、人生について自分の考え方や生き方を結婚前（パートナーを決める前）に熟慮のうえ持つこと。そして、それを結婚前に相手に伝えておくこと。パートナーに、「聞いてないよ～」と言わせないことだ。結婚後考えが変わることや、事情によって事前に伝えられないこともあるだろう。それは仕方がないかもしれない。しかし、事前に考えていないと、弁解の余地はなくなるだろう（経験者は語る）。そして、個人として本人の理想の人生にできるようにできるだけ努める。何より個人の努力が必要だが、自分だけの力ではどうにもならないこともある。政治や社会だ。

政府は国民の理想や希望の実現が可能となるような、自由で公平な制度や社会を築くよう、できるだけ努める必要がある。努力をすればそれなりに報われる社会。完璧な社会などないが、できるだけ理想に近づける社会。価値観は人によって違う。そして、能力も差がある。その時に必要になるのが再分配だ。だから、個人だけではなく政府が必要になる。全ての人が満足する完璧な社会はないし、できない。今までもできなかつたし、これからもできない。完璧な再分配はない。最大多数の最大幸福をめざすだけ。これだって、人それぞれ幸福の概念が違うからスローガンにしかならない。しかし、仕事をしたい人が家庭を持ちながらそれなりに仕事に励める社会、育児に専念したい人がそれなりに家事や育児に専念できる、努力が相応に報われる社会をめざすことが重要であり、世界的にはそこに性別や民族の優位劣位、日本の場合は性別による不利や村八分があってはならない。平等で公平な社会を築く努力をすることが理想である。なんちゃって。

老後どこに住むか？

その土地への愛着は長く居住すればするほど、また、個人差や性別、諸事情によっても違うが、私は個人的に場所に対する執着は強くないほうだ。引越しをしてきた経験が多いからだと思う。そこに居住した時間が限られ、移動に慣れると移動が容易になる。むしろ、引っ越しによるリセットやリスタートはメリットのほうが大きくなる。重要なものだけ残して、荷物や人間関係が減らせる、身軽になれるという利点がある。また、気分も新たにできる。心機一転のきっかけになりうる。あるところに生まれ育ったり、代々その地に住んできた人は明らかにその土地に対する愛着や思い入れが強いだろう。それも良いことだし大事なことである。

都道府県に注目するきっかけは新型コロナの感染状況の差異が地域によって大きかったからだが、その背景には、もともとさまざまな地域に対する興味があり、いろいろなところに住んでみたい、次どこに住もうか？最後どこに住もうか？という関心があるからだろう。どこかが終の住処となるわけだが、それがどこなのかとても興味深い。

老後に限れば、経済力のある地域である必要はなく、健康値の高いところがそれは良いだろう。気候・歴史などの地理、環境、風土、アクティビティ・趣味や食べ物の嗜好も関係する。人や人柄も大きな要因だが県民性というよりは隣人によるだろう。そして今特に考慮する必要があるのが、自然災害が起きやすい危険地域かどうか。大きな河川や活火山の近く、土砂崩れなどが起きやすい地域は避けるべきだ。地震、台風、豪雨それ自体は今や日本、多分世界でも安全な場所はないだろうから仕方がない。ポイントは二次災害が起きやすいか否か。

そして更なる決め手となるのが馬、その地域と馬が合うか合わないか、結局行ってみないと、住んでみないとわからないが、この馬が合う合わないは正体が知れない。だから、余計気になるし、大事にしたい。風土は、北よりは南の暖かいところ、沖縄を含む九州地方に食指が動いている。中国・四国地方も排除していないが、広島・徳島はないかな。愛知・静岡も再考してみよう。